



裏磐梯だより

No. 88

2018年1月



▲雪化粧の竜沼

この冬は初雪も早く降りましたが、降る雪の量も、この時期としてはここ数年で一番多いです。一晩でどっさりと降り積もる雪に落胆する気持ちも少なからずありますが、スノーシューでふかふかの新雪の上を踏みしめて歩いて行くのが楽しい季節です。

グリーンシーズンは言うまでもありませんが、こんな真冬でも五色沼湖沼群の魅力は健在です。なかでも、春夏秋と木々の茂みに隠れていた竜沼たつぬまがしっかりと姿を現しています。沼の色は、深みのある青緑色にみえたり、曇り空と雪の色を反射して鉛色にみえたりと、その時々でちがってみえます。名前の由来は不明ですが、ぐねぐねしたヤナギ類などの木々が水面近くまでいくつも枝を伸ばしており、その枝ぶりからは、力強く天空を飛び回る竜の姿が連想できます。

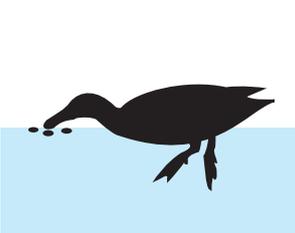
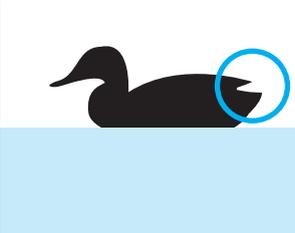
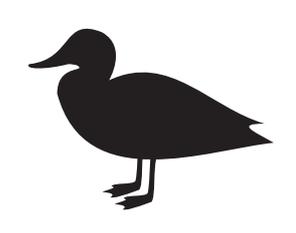
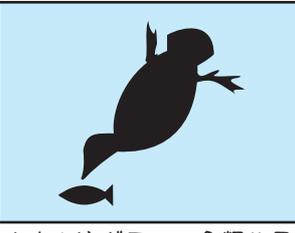
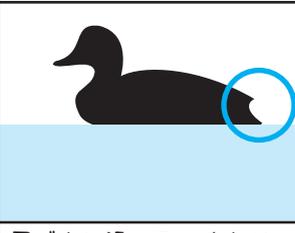
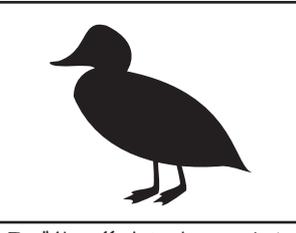
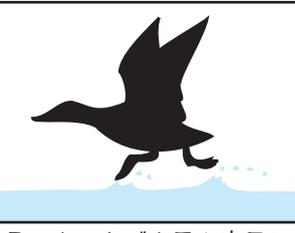
物静かで色の少ない季節ではありますが、まっしろな雪のなかに浮かび上がる五色沼湖沼群には、冬ならではの存在感が感じられます。例えば、青沼の青さにはこの季節でも思わずドキッとさせられます。スノーシューを履いて、一面の水墨画のような世界に足を踏み入れてみてはいかがでしょうか？

カモとはカモ科の鳥のうち、ガン・ハクチョウ類以外の総称です。日本ではカルガモなどが通年生息し、河川や湖などでみることができますが、カモの多くは冬鳥であるため、冬季に多くの種類がみられます。

カモの仲間分け

裏磐梯の湖沼群のなかでも、結氷しないところでは、カモ類などの多くの水鳥を観察することができます。裏磐梯では14種類のカモが確認された記録があります。カモはエサの取り方などで、水面採食のカモ類と潜水採食のカモ類に分けることができます。

カモのココに注目！

	採食のしかた	水面での様子	陸上での様子	飛び立ち方
水面採食のカモ類	 <p>くちばしを水面につけて、水面に浮いた種子などを食べる。逆立ちをして、水底にたまった種子や水草を食べるものもある。</p>	 <p>尾が水面の上にある。</p>	 <p>足が体の中央よりやや後方にあり、陸上を歩いて草類を食べることができる。</p>	 <p>足の水かきで水面をけり、翼で水面を強くたたいて、いきなり飛び立つ。</p>
潜水採食のカモ類	 <p>水中を泳ぎ回って魚類や甲殻類、貝類、海藻類などを食べる。</p>	 <p>尾が水に浸かる。または、水面のぎりぎりにある。</p>	 <p>足が体の後方にあり、水をけるには便利になっているが、陸地では体が直立してしまう。</p>	 <p>足の水かきで水面を交互にけりながら走って、助走をつけて飛び立つ。</p>

水面採食のカモ類



オシドリ



カルガモ

など

潜水採食のカモ類



キンクロハジロ



ミコアイサ

など

身近なカモ

ことわざに使われたり、食料になったりと人間に身近なカモですが、普段じっくり観察する機会は少ないかもしれません。カモの様々な生活の様子を観察すると、それぞれのちがいがわかり面白いカモ！この冬はじっくりカモを観察してみたいかたがいませんか？



五色沼自然探勝路の気になる石



▲瑠璃沼近くの四角い岩石

五色沼自然探勝路を歩くと気になる岩石があります。その岩石とは、瑠璃沼から弁天沼方面に30mほど北東に行った探勝路の右側に累々と重なる大きな角柱状の岩石です。この岩石は、緻密で均質な硬い安山岩で、そのまま石材になりそうな形と硬さです。この岩石は、噴き出た溶岩がまとまって静かに冷えて固体となり、冷却固化時の体積減少により規則正しい割れ目（節理）ができたため、角柱状になったと思われます。このような岩相は、溶岩が噴火口からやや離れたところまで流れて固化した場所にできることが多いです。

くしがみね 柳ヶ峰から川上登山口に沿って伸びる崩壊壁には、この柱状の節理のみえる溶岩の層が三層みえます。この瑠璃沼近くの岩石も、これらのなかの一部が岩なだれで運ばれてやって来た可能性があります。

以前84号のこのコラムに、現夢塚の岩石に、火山の噴火口近くで岩片がくっつきあってできた岩石（溶結火砕岩）の特徴がみられると書きましたが、瑠璃沼近くの岩石とはちょっとちがいます。いずれも、火山岩のできる場所の違いを反映し、それらがともに岩なだれにより現在のそれぞれの場所に運ばれてきた状況が読み取れます。

磐梯山の明治の水蒸気爆発による岩なだれの惨状を偲びながら眺めてみましょう。



▲崩壊壁にみられる溶岩の層



ようこそビジターセンターへ

展示室に新しい動物たちがやって来た！

今までもいた、小鳥たちやクマのはく製の他に、新しい動物たちが加わりました。

「ニホンカモシカ」、「ホンドキツネ」、「タヌキ」、「ニホンザル」、「ニホンリス」など、裏磐梯のいきものたちが展示室のなかに隠れています。動物たちの足跡を追いかけていくと、会うことができます。「動物足あとクイズ」もありますので参加してください。誰でも無料で楽しむことができます。詳しくはスタッフまでご連絡ください。



館内の至るところにいろんな足跡が！



▲動物足あとクイズ

❄ イベント & お知らせ ❄

❄ のわくわく散歩

スタッフがビジターセンター周辺を案内します。
簡単なスノーシュー体験が楽しめます。

受付時間：随時

所要時間：30分程度

参加費：100円

スノーシューレンタル代：500円

長靴レンタル代：200円



❄ きものぬりえ*冬の仲間たち

ぬりえコーナーに、新しく6種類(ニホンザル、ノウサギ、ベニヒワ、ミコアイサ、オニグルミの冬芽、雪の結晶)のぬりえが加わりました。

※500円で缶バッジにもできます。



❄ 芽&葉痕のスタンプ帳を作ろう

冬芽と葉痕のことを楽しく知りながら、かわいいスタンプ帳が作れるコーナーを開設しました。

＼ 待ってるよー /



❄ 各種レンタル実施中

スノーシューや長靴のレンタルも実施中です。

※詳細はお問い合わせください。



ビジターセンターの
窓から

もうすぐ立春。(クリリン)
今年の黄瀬は見事なようです。
(ターサン)
降り積もる雪、雪、雪また雪〜よ♪
(はるるん)
虫たちが飛び回る季節が待ち遠しい。
(さはらん)



ビジターセンター周辺*いきもの暦



《編集・発行》裏磐梯ビジターセンター自然体験活動運営協議会 2018/1/29 ※裏磐梯だよりの営利目的での使用をお断りします。

定期購読のお知らせ ご住所とお名前を明記の上、82円切手6枚(奇数月発行1年間分)を同封し裏磐梯ビジターセンター宛にご郵送ください。

磐梯朝日国立公園 裏磐梯ビジターセンター

〒969-2701

福島県耶麻郡北塩原村大字松原字剣ヶ峯 1093

開館時間 9:00-16:00 入館無料

休館日 火曜日(火曜日祝日の場合は開館し翌日休館)

TEL 0241-32-2850 FAX 0241-32-2851

ホームページ <http://www.urabandai-vc.jp>